



坤





梅の玉の集下

立秋 又月

公の心やあきうたふるこゝろにらま  
ゆきゆく松の枝のりりさの秋  
あふるる身をきくうけのや

依り

さう秋の葉はあふれたらうみ

松の葉の海



ねらふとあはれとてはなぬのよらにかれ  
秋のよもやちあはれをうらみ入るるま  
ふゆやまきあはれうらみのまをたよあ

あはれ

新らの田あはれうらみ——秋のうらみ  
あきかやあはれうらみあはれあはれの宛  
あはれやあはれうらみあはれあはれの宛  
あはれうらみあはれうらみや秋のうらみ

あはれうらみあはれうらみあはれうらみ  
あはれうらみあはれうらみあはれうらみ

あはれ 秋あ

あはれうらみあはれうらみあはれうらみ  
あはれうらみあはれうらみあはれうらみ  
あはれうらみあはれうらみあはれうらみ

あはれうらみあはれうらみあはれうらみ  
あはれうらみあはれうらみあはれうらみ



全今をたてての巻

花の香も心は花の香の光の光

朝の光も心は朝の光の光

只一箇のふり糸とたつたね

あつたつたつたつたつたつた

花の香も心は花の香の光の光

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

花の香も心は花の香の光の光

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

朝の光







ちきよなるれいぶぬのおぬいよ  
くわきつむやうけけけのきつぎ  
乃うは

ふ月やちのちのあふにけ  
本のるれ月もをちのね

詠句 新編

天の川えりりてけきにはよむせらる

秋の糸又ゆるや言乃にちのほ  
そののたしむえうつ子物うら  
ら

松人のちおさほちぬきさのち  
我ぬほほ色を

きつうれけいこせとむら  
回姫川

秋のちたやちちけい



一 巻

かきしめりておぼろけにきぶれ  
こまのしらべをなまぬきと相  
もりやう成にゆくはるる一きふ

色巻

させふきやきもつらん破つて守

義

子をとりてぬくまのきぬえを

るまのうやまもこち守たれをも  
二もゆき一ふらりぬきぬのれ  
らるるゆきと義ふむらぬき  
を採りぬのなまぬきとぬれ義  
社の志一かきれはみぬくこく

巻の

臨れはさしゆらぬしとたせ

おれく



まふの秋つもよみさるあうれ

秋

も風そのあそとえあふやう秋の  
り秋くお換えさるや秋のあう  
おまかうとあかしすあるや秋のあ

秋のあ 秋のあ

秋のあ 秋のあ 秋のあ 秋のあ  
秋のあ 秋のあ 秋のあ 秋のあ  
秋のあ 秋のあ 秋のあ 秋のあ

まふの秋つもよみさるあうれ

秋

も風そのあそとえあふやう秋の

り秋くお換えさるや秋のあう  
おまかうとあかしすあるや秋のあ

秋

も風そのあそとえあふやう秋の

り秋くお換えさるや秋のあう



魂柄やほひのなるとは  
振あめのことせいのまやまのみふ  
けくれくまのまふかうまも魂  
あけくやられぬふ佛くれ  
るまや新風たてて人通あ

まゝ

松の松をまげくまをんいふ松  
秋もや、あまきこや、踊り

角力

なまこあまわれらるる角力  
らまのまゝおぼゆるま

あま

吹あれくまのけまかーれ  
まろゆくあま山子大物おろけ  
うまこまのまま守かしら

角子



守くのもをなまさめつゝみ子りし  
鳴きありつくもえさるゝ敷のち

い歌

いさくやまのようえさる塚の松  
い歌くし月すらや寺ふとこ

哉寸浪ま

いさくやまのちまも田舎の

月

哉寸浪ま

百中いさくはつとら月め三日市  
いさくい月さんい浪のち敷くれ

いさくすんい浪ま

月さやい々戸の柳きえぬら  
いさくのちをたさめい月えくれ  
いさくやまいさくおは人のち  
いさくすんい浪まいさくすんい浪ま



久月や熱ももてからむお  
くしやさふかきおの影  
茶屋の猫もくちやりの月  
めづ目やとのふかしくはらね  
お稽のわらうまき  
昔の侍さくさくは月々  
一とせき屋のわらうまき  
お稽

夏かやろふの月夜を  
お稽  
月のそらやちうくわ  
月の雲影をまき  
風をらるるおの田の  
おぬらうくまきの  
はなうし  
お稽はさく月を



大は馬の儼

おせりやからむらあせの月

政中泊橋本堂らるる

さしや入るとたおむ秋の月

いよひや疾のつづる小はらふ

いさよめおゆふとまよるらし

いさよめおゆふとまよるらし

さよめおゆふとまよるらし

ある人もあさうなれいらさ

うらにそらうもあうて

孫くそおあるさうきや龍の身

あまのあはるいそ海風らや

あまのあはるいそ海風らや

あまのあはるいそ海風らや

あまのあはるいそ海風らや

あまのあはるいそ海風らや



おきき 秋のそら

おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら

秋のそら

秋のそら 秋のそら 秋のそら 秋のそら  
秋のそら 秋のそら 秋のそら 秋のそら  
秋のそら 秋のそら 秋のそら 秋のそら  
秋のそら 秋のそら 秋のそら 秋のそら

おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら

おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら  
おききや秋のそら 是よのちの秋のそら



芒 尾花

釣人のちちらうとある岸の  
ち穂のひもまねく芒かま  
田のちよきくかしのすねれ  
まのそとせふたにく尾花  
あはれの流のちよき尾もれ  
穂  
いねのほさるくとまて穂え

ハ 穂のちよき

穂をよむるはゆるさ  
あえ

はくく年流つむる穂のむ

あをく

まいねを種もくかく穂ひちち

西心

ち入の子れちちちちち



冬の方より春のころの雪にうま  
森の女の歌

なごころと春のころの雪にうま

ち

ふとふとふとふとふとふとふと  
ふとふとふとふとふとふとふと  
ふとふとふとふとふとふとふと  
ふとふとふとふとふとふとふと  
ふとふとふとふとふとふとふと  
ふとふとふとふとふとふとふと  
ふとふとふとふとふとふとふと  
ふとふとふとふとふとふとふと

春のやまのさくらさくらさくらさくら

春のやまのさくらさくら

あつたやまのさくらさくらさくら

秋の歌

あつたやまのさくらさくらさくら

さくら

あつたやまのさくらさくらさくら

45



あはれうきうきと秋の光

秋の光 秋の光

秋の光たるにせれり秋の光  
人かたしとてやと秋の光

いなり

十回ゆくふらふらと秋の光

秋の光

とんがくや帆をくると秋の光

秋の光さへけり秋の光

とくほつのおもて秋の光

ふくやうと秋の光

秋の光

ひくやと秋の光

秋の光

ふくやと秋の光



見らるゝ所のさくらや木の  
は見えぬ所のさくらや木の  
葉のよきよきお花のよきよき

一

お花のよきよきお花のよきよき  
さくらや木のよきよき  
お花のよきよきお花のよきよき  
お花のよきよきお花のよきよき  
お花のよきよきお花のよきよき

お花

のよき

お花のよきよきお花のよきよき  
お花のよきよきお花のよきよき  
お花のよきよきお花のよきよき  
お花のよきよきお花のよきよき  
お花のよきよきお花のよきよき

お花

お花のよきよきお花のよきよき



小湊のさくらさくらや何しろのさ  
いづれに飛ぶさねおふる

ちまき ちまき

小新畑七つららあはれそのを  
門あはれさくらさくら茶の歌  
息女なるやささるを解のさ  
金縁のちまきさくらさくら

サ菊

白のちまきさくら茶の白さ  
あはれさくらさくら茶のさ  
茶のさくらさくらさくらさ  
さくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら



わらわちとまきのをうごころ　りき  
終りれといふうたなりけしなりき

穂田法乐

うらたやまのまう乃まきのを

り光の中

まきのやあまも七すんたの酒

あまも

あまも折るひとみふむいたる

あまもく　まうかま　あまもれ  
さーけら　折るもつし守あまみち

あまも

あまもく　まうかま　あまもれ  
あまもく　まうかま　あまもれ  
あまもく　まうかま　あまもれ

あま

あまもく　まうかま　あまもれ



あつちうやあまねしつちうちうちあま  
らだく出てこまらあまのあま  
せぬもあまこもあまのあま  
いせあま

あうこわらあまあまのあま

後の月

あまのあまあまのあま  
あまのあまあまのあま

あまのあまあまのあま  
あまのあまあまのあま  
あまのあまあまのあま

あまのあまあまのあま  
あまのあまあまのあま  
あまのあまあまのあま  
あまのあまあまのあま



こゝろもさるをうらむをうらむ  
なん侍つるものさかろめな  
あまをひくくかまうのめれ  
我人ハ一とせのうちまかひ  
さあめいほまおろはしほま  
かひくくさかろくさかろ  
あまうくやのまかたう  
やみめ

そらうしきさうさへふをさうれ  
いつらうれ終つたら夜も辛  
まあ最もさうらうく操くく  
さあめいほまおろはしほま  
あまをひくくかまうのめれ  
あまをひくくかまうのめれ

ゆく情うれ



係のわさくれ  
函崎

あうみんをきいなるやう系うけに  
やせのら田れかーをううらむ

あきの歌

この月とらるやあきの初時を  
志くもやきふくもたまたま  
笑仲さのやけほくある時をくれ  
けんやう陸子の穴と志くれわ  
志くもやねいあうら一ねとむ  
伊のまうハアアはかわさよ対る



志くばるや長秋伊豆のやうを  
詠行をぬこ圃に

かゝりの竹をかくぬ志くばるを

たせしはと

りくをい日は忘れぬ時をれ

柳あまの府の松

なうくるをうし時ると、らぬ松

志くばるや松えたるの歳さし

時るくく入りりわち池のち  
望まらるる思ふに志くばる

あま

夜とすくあるをうし、くらのあ

うかたれ、花のうし、くらのあ

ふぬの係をおるて

さむろのあまもせうあるあうり

あま月とくもあうりあまふ



いしや

たふのまゝとていふらんこゝろにいかに

いしや

木の葉もなほまきまきけの  
田のふよむとかなしはあつたれ

お中

縁よめる木のこゝろに  
掃ふせいでいふまゝにや境の穴

いしやふたかゝらぬのちや

いしや

風のりゝねくもも  
りまゝに風ふくはのち

いしや

木の枝のゆゑにまのつゝ

いしや

糸のほつちからその小なれ







枯尾歌

市也さうや所う又や枯尾を  
吹よれのそくかき芝うれ  
ら飛くやたすく喚守枯をを

よきみさほま

此よにかもさあるよくうきをを

大松

と角から窓をちりし大松り

はあう子に伝る休く大松引  
大松を廻りしほちるよあうま

まらうま

まらうまの玉川一はらうま

のうま

二三言規ふゆくぬきうめ  
務いさうまゆきいせしやあうま  
降きて肩をぬきうまゆきうま



少

少くもならそふくまはるる

雪

まらぬさにはゆけを掃ぐにれ  
雪ちししくおつ入木葉の終  
ゆきおくれくもむらぬ後のあ  
ぬえく人をく雪上様むね  
雪よりやりおむらるる

松の雪をゆきなまのよらあは  
ゆきくまのささうこむやまの  
まらぬやんれをさいらけまら

大森

ゆきらゆきをゆきうらやまのむ  
おもつたのむをゆきうら雪の本  
ゆきゆきゆき生葉もなうらん  
ゆきのゆきゆきゆきゆきゆき



可憐なる浮世草

あはれなるまじりくらくらく人々の  
降るをばいとほしき形やゆき佛  
ゆきの介抱むも志くぬ富るぬ

つら人の難世草

雪をうけて思ひまをくまに  
路ゆくまに

この国のきりぎりすはるるは

物のおやねをさへくまにかうくま  
切まをくまにさへくまの

つら

物のちりりさへくまにさへくま  
まをさへくまにさへくま

さへくまにさへくまにさへくまの  
月

つら

おちるも眠らぬさへくまの







船をくやけさす坂のゆるり  
風をうそく船の帆のゆるり

みづ

ゆるりのゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり

風船のゆるりゆるりゆるり

流のゆるりゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり

ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり

ゆるり

ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり  
ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり







を唄

山度りやう一房かま好くおひり  
山をなるとさうと飛りおの路

栞

一室かゝるくもかゝる栞の  
たゞきやうむの木の味り  
縁をせとすも栞の純き

念 けの念

るをよきよきよきよき  
ぬくもあのをきよきよき  
ぬもくみ火もたくふ化のかきよ  
きよのよきよきよきよき

幼き

ゆくもよきよきよきよき  
栞の路をぬきのよきよき

幼代



あいらり月をさへみたりけり  
とつとつと大なるおききん細代も

冬月

芳きる紅はばよあはぬみの月  
を照て入る山をくしあかめく  
くし月やるさくまぬやねをさる

あはれわらわぬのぬ

白雲よまてをさるるくしあかめ

あはれわらわぬのぬ  
ふゆのぬやけりたよておそりき

神楽 神楽

ふゆのぬやけりたよておそりき  
えりぬもや神楽うらな威まの肩

山あききり

山あききり  
雪掃の中うらやまは優やあ  
すおやぬえさる神のぬ



あつちのむふたるあふ

うくらすのいさ子あつちのあゆ

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち



十三年の立身

十三年の月を記しつゝあり

無事之秋

初秋之序

くらの余をくわて略し秋の山  
を秋もくわぬ不このたりよあり  
くわちや又なり守りくわくわ

秋の終老

先てを守りくわてくわて  
いよく来む仙境の抱く  
くわちや又なり守りくわくわ  
くわ秋もくわぬ不このたりよあり  
くわちや又なり守りくわくわ  
くわ秋もくわぬ不このたりよあり  
くわちや又なり守りくわくわ







布子世にちまをゆきつ白の地ぬ  
はかす柳さくらや秋をく像

あつらんれ能勢女

さきりくはきり入るおのち中  
あいら野布の清くゆくそ  
縁くさねたねくはるるぬ  
るをいける人や小そをゆくのむ  
入梅をれや先んるらの大文字

ゆつららのち極くをとこかふ  
芋のきりくぼくはち守りきりぬ  
ふをよかりくはるやいと田つ  
ゆつらちやお縁をうはすみ田に

秋のきりくせしと記

ちりくさるかりりる秋のきりき  
いつちりり縁ちるはるねの風  
あふにみるなるといふぬ秋のぬ



あつるまゝ人けりやうさわく  
いりく風おしなるほ花のれ  
よの持えよ歌をひ  
きよぬい草のつるもれ花の  
室のや二階のらん花の  
小室のい紙をきくは  
引くやあそび乃りくあそび  
帰路や水も流るるは

相のまゝ乃二りうやい草の  
たなもひとあそびやあそび  
るよあそび人らくなるか  
推しよのうたあそび  
室のよのまのうたあそび

あそびのうた

あそびのうたあそびのうた  
あそびのうたあそびのうた



くも成をや伊かよの千きなみの橋  
船のたれとくくさるるおねおね  
はうららまこさるるおねおね  
たまたお赤子ささるるおねおね  
ねしとておれんたさうしおの葉  
やうららおれんたさうしおの葉  
人のあゝとささるるおねおね  
おねおねおね

ちたものいあまいうそ花のま  
とそよや梅をくおけももの枝  
くら月や山とまこくおねおね  
白雲のちてまぶやくおねおね  
まくとおねおねいおねおね  
よのおねおねおねおねおね  
えりおねおねおねおねおね  
おねおねおねおねおねおね



乃此をいふ一に流傳せしむ

るべしなり

或人可也と云ふ集より多量の歌と  
よとの必ららむと云ふ人の集り  
これなどいふをいふやと云ふを  
依りて多量のものをいふと云ふ  
歌の歌といふやと云ふはたのつ  
稽といふ歌をいふはたのつ

多量の歌を附白をいふはたのつ  
と云ふやと云ふ集り多量の歌の  
歌をいふはたのつ



方園齋  
藏板



白撰  
 梅之のあけ京 二冊 毎風種 出板  
 日家集 二冊 女曹種 今  
 日後海 二冊 抄りく 名刻  
 日文集 抄りく 全  
 日法を所全集 二冊 抄りく  
 五十五巻 抄りく  
 祖翁退福集 抄りく 全

皇漢洋今古書籍新古翻譯書類  
 自家積年發兌セル者ト其集藏帝ニ  
 充棟載車ノ夥キノミナラズ品位精上  
 價程清廉以テ四方君子愛顧ヲ待ツ

心齋橋筋南久寶寺町甲目

大阪書籍老舗  
 前川善兵衛



